

2026年大相撲初場所観戦日記
～初春 混戦を征した新大関～

●初日：朝白龍・羽出山の新入幕同士の取り組みで今場所が始まった。機会があれば叩いて勝とうと言う姿勢が感じられる羽出山の相撲に対して朝白龍はきちんと相撲をとって完勝。

時疾風は琴勝峰を攻め抜き今場所も好発進。さらに技量向上した時疾風と、方向性が感じられない琴勝峰の相撲の差がはっきりと見えた。

平戸海・美ノ海・大栄翔が良い動きで、しかも自分の相撲が取れているように見えた。高安・霧島の力強い取り口は、今場所の活躍を約束しているように見えた。

安青錦・大の里は落ち着いて自分の相撲が取れているようだったが、勝ちにしたものの琴櫻の腰高と豊昇龍の気合の入りすぎが少々目についた。

●二日目：朝乃山が幕内復帰後の初勝利。中入り後、序盤の取り組みで印象に残ったのは朝白龍・欧勝海戦と、錦富士・時疾風戦。いずれも気迫と「攻め」を感じる取り口だった。

中盤に入り、平戸海・藤ノ川戦も見応えがあったが、藤ノ川の気迫が勝った。

義ノ富士は素早い動きで新大関に迫ったが、安青錦はうまく密着して、相手の力をうまく使って腰の回転を利かせた掛け投げのような首投げで裁いた。攻められてもとっさの判断で「次の手」に転じる冷静さが見えた。横綱・大関は無傷で、関脇に戻ってきた霧島の落ち着いた相撲ぶりが目立った。

42人の幕内力士の中で初日に勝った力士は半分(21人)、二日目を終えて二戦全勝は13人。

二戦2勝の力士は「いい感じだな」と思い始め、二戦2敗の力士は「ことによると・・・」と不安が頭をもたげる、二日目とはそんな日なのかもしれない。

●三日目：熱戦が多く、物言いがついた取り組みが三番、取り直しが二番あり、館内は大いに沸いた。若隆景が少しずつ自分のペース・自分のスタイルを取り戻し始めたように見えた。

高安が大栄翔をかいなひねりでぶっ飛ばすような勝ち方は、年齢を感じさせない一番だった。

霧島・伯乃富士戦は、土俵際のきわどい勝負になり、取り直しになったが、霧島が勝ち名乗りを得た。取り直しを含めて二番とった霧島の身のこなしから、今場所はかなり行けそうな空気を感じた。

大の里は、不覚にも宇良の足取りに転がされてしまったが、同体・取り直しに救われた。取り直し後の大の里の取り口は万全だったが、本割は少々粗雑さも見えた。これで慎重になるのかも。

そんな状況を土俵下から見ていた豊昇龍は、義ノ富士の速攻・猛攻に呆気なく土俵下に落とされた。

三戦全勝は、大の里・琴櫻・安青錦・霧島・欧勝馬・阿炎・獅司・朝白龍の8人になった。

元幕内力士で序の口まで陥落した炎鵬が、東幕下11枚目で2勝0敗。十両復帰を目指して奮闘中。

●四日目：時疾風が千代翔馬を上手出し投げで破った。時疾風が体を回転させながら、土俵に向かって打つ出し投げのスタイルは美しさが感じられた。正代が久しぶりにやる気になっているようで、豪ノ山を一方的に攻め続けた取り口に力強さが現れていた。藤ノ川・阿武剋戦も見応えがあった。藤ノ川の潑刺とした取り口と、阿武剋の応戦ぶりが素晴らしかった。

霧島は落ち着いた取り口で、高安は若々しい取り口でそれぞれ星を伸ばした。昔から言われてきた言葉を思い出す。「関脇が強い場所は面白い」。

そんな後で大関琴櫻が、突き押し相撲の一山本に四つ相撲で敗れるという珍事。琴櫻が腰高で上半身だけで相撲をとっている感じなので、長身の一山本に力で負けた感じだった。

安青錦は王鵬の速攻に屈して初黒星。安青錦への攻め方を研究したような王鵬の相撲だった。

結びの一番も大波乱となった。大の里がやや腰高のままで、右差し手一本だけで突っ走ったので、土俵際で義ノ富士の体に乗せられて上手投げで投げ落とされてしまった。右差しで左も前みつでも取っていれば投げを食うことはなかったはず。突っ走る前に、左もつかみ一呼吸置いて腰を下ろせば、このようなことにはならなかったはず。苦手意識が芽生えかかっている、素早く決着をつけようという気持ちが先走ったのではないかと感じた。かくして、4戦全勝は霧島・欧勝馬・阿炎の3人になってしまった。

●五日目(序盤終了)：竜電と朝乃山の熱戦で始まった。朝乃山の回復ぶりが感じられる一番だった。阿炎は千代翔馬を突き落として5戦全勝としたが、棒立ちで粗雑な取り口に美しさはなかった。藤ノ川が正代を正面から攻め立てて押し出したのは見応えがあった。体格差・年齢差・経験差どの面から見ても明らかな差がある相手を、ものともせず正攻法で押し出した若手に脱帽。欧勝馬は巧さと速さと力強さで、見事な上手出し投げで金峰山を転がして、阿炎に続いて5戦全勝。高安は今日も力強い取り口で若元春に完勝、霧島は意外なことに王鵬のはたき込みに敗れて後退し全勝は二人だけになった。大の里は隆の勝を突き落としはしたが、薄氷の勝利だった。

5戦全勝	欧勝馬・阿炎
4勝1敗	豊昇龍・大の里・安青錦・霧島・高安・藤ノ川・朝乃山・欧勝海

●六日目：欧勝海がベテラン御嶽海を見事な四つ相撲で破り、巧さと力強さで先輩を上回った。豪ノ山・藤ノ川戦は見る価値のある大一番だった。突き押しを身上とする豪ノ山の圧力を凌ぎながら果敢に攻め続けた藤ノ川のひとまわり小さな体が、輝くようだった。若手力士がこういう一番を見せてくれると、相撲界の将来が明るくなるような気がする。

欧勝馬は美ノ海を相手に、手繰り・ひっかけ・小手投げを繰り返す悪癖が出て墓穴を掘った。1敗同士の高安・安青錦戦は、落ち着いて低い姿勢を保ち攻め続けた安青錦に凱歌が上がった。

6戦全勝	阿炎
5勝1敗	豊昇龍・大の里・安青錦・霧島・欧勝馬・藤ノ川・欧勝海

●七日目：阿炎の突き押しを下からあてがってうまくかわした朝乃山が勝ち、これで全勝は消えた。棒立ちの状態です突きを連発する阿炎の腕より下はがら空き、そこを攻めた朝乃山の作戦勝ちか。藤ノ川の低い位置からの果敢な突きを、根気よくかわしながら、機を見て攻めに転じた美ノ海の巧さが勝った。両力士が、自分の持ち味を出し合って戦った気持ちのいい熱戦だった。

霧島・安青錦が淡々と自分なりの相撲を見せて白星を得たのに比べ、綱渡りのような勝ち星を得た大の里と団体・取り直して辛勝した豊昇龍の相撲が対照的だった。

中日を前にして全勝はいなくなり、1敗で6人が並び、その後に2敗が9人という状態になった。ここまでの取り組みを見た感じでは、横綱の優勝はなさそうな感じがしてきた。

敗れはしたが豊昇龍を相手に善戦した伯乃富士の相撲がひときわ輝いていた。

●八日目(中日)：玉鷲・藤ノ川戦、欧勝馬・熱海富士戦、隆の勝・美ノ海戦と内容のある取り組みが続いて、中盤を盛り上げた。最後の三番が今場所の行方を示すような結末となった。

関脇に戻った霧島は、新大関安青錦を一方的な相撲で破り1敗を堅持した。そして、横綱戦。豊昇龍は大栄翔に突かれて叩かれて、足がついていかず四つん這い。大の里は伯乃富士に何もできずに押し出された。取り組み終了後の動きを観察してみると左手が動いていないので、肩の故障が完

7勝1敗	霧島・阿炎	治していないか、または悪化しているかのように見えた。
6勝2敗	8人	天覧相撲で「看板力士4人が全員討ち死に」という無様な結末で、貴賓席で接待をする八角理事長の表情がこわばっていた。

昨日書いた「今後の予想」が見事に的中して、「ほんまかいな」と逆に驚いている。

ここまでを見ていると、霧島が一番余裕と力強さがあるように感じた。

●九日目：琴勝峰が阿炎を押し出したのは予想外の展開だった。阿炎はこれで先頭から脱落。玉鷲・欧勝馬戦は本日最大の熱戦だった。しっかりまわしを引いた欧勝馬が土俵際まで玉鷲を追い詰める。玉鷲は鬼面で必死の踏ん張りをして堪えたのち、くると体を入れ替えて今度は逆襲に入る。今度は土俵を背にした欧勝馬が、決死の形相で堪える。攻める玉鷲も守る欧勝馬も顔が真っ赤で、力の入り具合が誰の目にもはっきりと伝わってくる。玉鷲の寄り身に凱歌が上がったが、土俵と会場とテレビ観客とが、まさしく一体となった大熱戦だった。

8勝1敗	霧島
7勝2敗	安青錦・熱海富士・藤ノ川・阿炎・獅司・欧勝海

霧島が宇良をさばいて、安青錦が若隆景を切り返して転がした後、琴櫻が難敵高安を下したところまでは良かったが、横綱が二人とも覇気のない戦意喪失のような負け方で、何とも締まらない結びになった。玉鷲・欧勝馬戦

がなかったら国技館の客席からブーイングが出たかもしれない。

3日目にも書いたが元幕内力士炎鵬のその後、東幕下11枚目で5戦全勝で先頭を走っている様子。

●十日目：翔猿が不調な場所は面白くない。竜電を破ってやっと3勝7敗。十両への陥落の恐れあり。昨日まで良い相撲が取れていた欧勝海が阿炎との相星対決で、まったく良いところなく突き落とされて一步後退。藤ノ川は獅司との相星対決。獅司の規格外の豪快な取り口に歯が立たず敗退。豪ノ山が美ノ海を押し出した相撲は見事だった。美ノ海は立ち合いですぐに前みつを取って前進を始めようとしたのだが、豪ノ山は前みつを引かれたままでのど輪攻めとともに前進を開始。美ノ海をのけぞらせて土俵中央から土俵際まで運び、押し倒してしまった。不利になっても反撃を続けて勝ち星を得た豪ノ山に、館内は大きく沸いた。

霧島が琴櫻に敗れて1敗はいなくなり、2敗で5人が並ぶ形になった。優勝ラインが3敗まで下がってしまうのだろうか、少々心配になってきた。

●十一日目：さてさて、波乱の連続でここまで来て、いよいよ終盤五日間が始まったが……

2敗同士の獅司・阿炎戦に注目が集まりはしたが、阿炎が立ち合いで左に変わり、力と力のぶつかり合いはないままに獅司を突き落としで2敗を堅持。

朝乃山は平戸海を右四つの型通りの相撲で寄り切り勝ち越し。

177cm・122Kgの藤ノ川と187cm・195Kgの熱海富士の取り組みは迫力があつた。小柄な藤ノ川が前みつを引いて下からの攻めに入ると、熱海富士はその腕を抱えてすかさず密着し前進。双方の筋肉が盛り上がりながら、じわじわと土俵際まで進み、藤ノ川の体が土俵外へ放り出される形になった。わずかな時間のできごとではあつたが、両力士が力を出し切った取り組みで見る方も緊張した。

中盤から熱海富士の前進相撲が目立ってきて、復活を感じさせた。三日目から無敗で邁進中。

安青錦は伯乃富士を下して2敗に残ったが霧島は大の里の気を取り直したかのような速攻相撲に敗れて一步後退。

9勝2敗	安青錦・熱海富士・阿炎
8勝3敗	霧島・獅司・朝乃山・欧勝海

●十二日目：朝乃山は、朝乃山らしい相撲で、若手の先鋒藤ノ川の低く素早い動きを征して9勝目を上げた。琴櫻を相手に、阿炎は今日に限って突き押しをせずに右上手を取りに行き、簡単に吊り出されてしまい、3敗に後退。安青錦は熱海富士の巨体を利した攻めにもたじろぐこともなく、低い姿勢から攻め続けて寄り切った。

霧島は、膝を痛めていると思われる豊昇龍を簡単に寄り切り9勝目。大の里は高安にやや苦戦はしたが勝つことができて、ようやく勝ち越し。横綱が二人とも花道を引き上げる時にびっこをひいていた。結局、2敗で先頭に立ったのは安青錦、これを3敗で6人が追う形になった。

東幕下 11 枚目の炎鵬は6戦全勝。
幕下優勝と十両復帰の可能性が高
くなってきた。

10 勝2敗	安青錦
9 勝3敗	霧島・熱海富士・阿炎・獅司・朝乃山・欧勝海

●十三日目:中日まではあれほど熱戦が続いていたのに、日を追って少なくなってきたのは不思議だ。3敗同士の熱海富士・阿炎は熱戦を期待したのだが、熱海富士の一方的な勝利に終わって、いささか拍子抜け。あれほどセンセーショナルな活躍をした義ノ富士が、大栄翔のはたきに敗れて6勝7敗になってしまった。今日一番の熱戦でしかも秀麗な相撲を見せたのは平戸海だった。低い立ち合いから前みつを取り、前に圧力をかけながら二本取って、下から煽るように寄り立てて王鵬を寄り切った。平戸海の相撲の良いところがすべて出た感じだった。高安はかちあげ気味の立ち合いで朝乃山を攻め続けて、力強い上手投げでとどめを刺し、勝ち越し。霧島は獅司を難なくさばき、10勝に乗せた。

結びの一番、安青錦は低い姿勢で豊昇龍を終始攻め続けて、最後は上手投げで横綱を転がした。

11 勝2敗	安青錦
10 勝3敗	霧島・熱海富士

安青錦が単独トップに立ち、霧島と熱海富士がこれを追う形になった。明日は霧島・熱海富士の3敗同士の対決、安青錦は大の里戦になるので、結末が読める日になるかもしれない。

幕下では6戦全勝同士の対決、炎鵬・延原(のべはら)戦が組まれ、延原が体を利した取り口で浴びせ倒して勝った。炎鵬は6勝1敗となり、残念ながら延原の優勝が決まってしまった。

●十四日目:ようやく勝ち越して安堵の表情の力士、ついに負け越してしまい落胆する力士、勝負がついた後の力士の表情が様々で面白い。これが、自分の給与に反映されるわけなので、残酷でもある。欧勝海は低い姿勢から突進してくる平戸海に攻め込まれて危ういところだったが、上手を引いて持ちこたえた後は、力強い寄り身で一直線に逆襲して浴びせ倒した。見ごたえのある一番だった。

熱海富士は巨体を利用して霧島を圧倒して浴びせ倒して3敗同士の対決を征した。

11 勝3敗	安青錦・熱海富士
10 勝4敗	大の里・霧島・阿炎・欧勝海

結びで、大の里は安青錦を起こしてのどわで攻めて圧勝し、安青錦を単独トップの座から引き下ろした。明日の本割は、「熱海富士対欧勝海」、「霧島対阿

炎」、「安青錦対琴櫻」、「大の里対豊昇龍」と発表された。事と次第によっては優勝決定戦の可能性も出てきた。

●千秋楽:藤ノ川と時疾風の小柄な力士同士の対戦は、様々な観点から期待していた。藤ノ川の機敏で大胆な攻めがやや勝っていた。もう少し激しい攻防になるかなと思っていたが、短時間で終わった。熱海富士は欧勝海がまわしを許さなかったが、構わず圧力をかけて土俵際まで運び勝負をつけた。安青錦は琴櫻に対して、危ないところもなく寄り切りで勝ち、熱海富士との優勝決定戦になった。

12勝3敗同士の優勝決定戦は、安青錦はいつもどおりの低く力強い寄り、熱海富士の体の大きさを活かした果敢な攻めのぶつかり合いとなったが、土俵際でとっさにまわしから離れた手で首投げを打ち、安青錦が勝利を手にした。熱海富士の腰の位置が高く、安青錦の腰の位置が低いので、安青錦が首投げを打つと、熱海富士の体が腰に載って回転して効果的な首投げになった。

二場所連続優勝、新大関の優勝など評価に値する実績となったが、私の目で見ると今場所の安青錦は日を追って体の張りが落ちていたので、十分な体調ではないように感じた。

それでも優勝できる力士になってきたのかもしれない。序のロデビューから15場所、通算成績が128勝34敗(勝率0.790)、幕内通算(6場所)成績で68勝22敗(勝率0.756)。

●しめくり:またまた「綱取り」と騒ぐ状況になったが、安青錦のような安定感のある力士だからこそ、しばらく大関に置いて実力を発揮してからその上に上げたら面白いだろうと思うのだが、それを許さない世の中は、祭囃子を先行させるのだろうか。

東関脇で11勝4敗の霧島についても同じように、「大関取りの起点」と騒ぎ立てている。
全体を見渡せば、次代を担うべき若手がいっぱい出てきているので、来場所もその次の場所も面白くなりそうな気がする。

☆☆☆毎日選ぶ優秀力士(独断と偏見の「私が選ぶこの日の一人」)☆☆☆

初日	二日目	三日目	四日目	五日目	六日目	七日目	中日
時疾風	藤ノ川	義ノ富士	義ノ富士	高安	藤ノ川	伯乃富士	霧島
九日目	十日目	十一日目	十二日目	十三日目	十四日目	千秋楽	
玉鷲	豪ノ山	熱海富士	朝乃山	平戸海	熱海富士	熱海富士	

以上